



NO.467

R8年7月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



映画『国宝』から学ぶ

施設長 木下昭二

梅雨明けが待たれるこの時期、蒸し暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

室内での熱中症も含め、十分にご注意いただき、体調管理に努められて下さい。また、今年が例年に比べ早い時期から台風が日本列島に接近・（一部が）上陸しており、更なる今後の動向が気になるところです。台風シーズンを大過なく過ごせることを願っています。

さて、私事ではありますが、先日ようやく映画「国宝」をTVにて鑑賞しました。話題作として気になっていましたが、3時間越えの大作によりやく腰を据えて向き合うことが出来ました。まだご覧になられていない方の為にも、作品そのものの魅力について語りすぎるのは控えますが、静かでありながらも力強い

余韻を残す内容であり、登場人物たちの姿勢や関係性が、私たちが支援者側の仕事にも通ずるものがあると思ひながら見ました。

映画の中心には、「受け継ぐ」というテーマがあるように感じました。技や心を伝える側と受け取る側、その間にある葛藤や不安、そして成長。このことはまさに、私たちの支援の現場で、「ベテラン・中堅スタッフの方々が、新人スタッフを育成していく」中で起こっている姿そのものであると感じました。

特に印象的だったのは、作品の中でのセリフで、“教えとは、相手の中にある芽を見つけて育てることだ”と示唆する場面です（内容はネタバレしませんが、ここにぼかしています）。この言葉は、単に技術を伝えるだけでなく、相手の可能性を信じ、時間をかけて寄り添うべき新人スタッフへの対峙の仕方や、姿勢の大

切さを改めて思い起こさせてくれる言葉でした。

ベテラン・中堅スタッフにとつて、日々の業務に追われながらも新人を支え、育成することは容易ではありません。しかし、映画に描かれていたように、教える側もその過程で、自分自身が利用者さんと向き合うに当たって、信条としていえることを言語化する事で、自らの成長の過程を整理し、自分の仕事の意味を再確認していくことに繋がっていくと思ひます。新人スタッフは、勿論最初から完璧である必要はなく、まずは先輩の支援を「見て、真似て、やってみる」ことが大切であり、先輩職員は新人スタッフの支援が「自らを映す鏡」となり、見え方次第では、律すべき姿として、見ることも出来るのではないのでしょうか。

また、映画では“伝統”とい

う重みが描かれていました。私たちの支援の現場の中にも「施設として守るべき文化」や「利用者さんの尊厳を守る姿勢」があります。それらはマニュアルだけでは伝わらず、日々の関わりの中で考え、学び続ける中で受け継がれていくものだと思ひます。一方で、「伝統」に縛られることなく、時代の流れに合わせて「変えるべきこと」と、「変えてはいけないこと」については、しっかりとした議論の中で柔軟かつ厳格に判断していきたいと思ひます。

今後の施設運営において、中堅スタッフの存在は施設の未来を形づくる上でますます大切な柱となり、新人スタッフにとつての道標にもなります。

映画「国宝」は、静かに心の奥の自分に問いを投げかけてくれる作品でもあります。

私たちが「人を支え、共に成長する仕事」と向き合うことの本質を、この映画から改めて見つめ直すことが出来、今後の自身のスタッフ育成や、利用者さんへのより良い支援に繋がるように、共に歩いていきたいと思ひます。



1班 『私とA子さんの楽しみ』

A子さんは、毎月予定されている芸術クラブをととても楽しみにされています。毎月、スケジュール表を渡しているのですが、必ず「芸術クラブはいつですか？」と聞いてきます。芸術クラブとは、若手の女性スタッフがその月のテーマで、色々な材料を集めて、4名から5名の利用者さんと一緒に、日頃の活動とは別に企画してくれている活動です。（例えば…5月は鯉のぼり、6月は紫陽花等々）A子さんの作品を見ると、私も知らなかった彼女の器用さにびっくりです。人に教わること、関わられることが少しだけ苦手なA子さんですが、芸術クラブの時には分からないことを尋ねたりとスタッフに助けをもらいながら製品を作り上げています。細かな作業や色使いなど普段の仕事では見ることのない姿を見て、物を作ることへの興味があることを知り、長く付き合っている中での大発見でした。個性豊かなA子さんらしい作品が出来ているのを、私もいつしか毎月の楽しみになっています。普段の関わりでは見せてくれない部分を引き出してくれる若手スタッフに脱帽です。玄関のスタッフ室窓に毎月の作品が展示されています。是非ご覧ください。

主任 八木 良江

2班 『安心感』

今年度で担当5年目となるFさん、本来他者との接触を積極的には好まない方です。ですが、最近では生活棟から作業棟への移動の時やレクレーションでの移動時、本人が不安に感じていると思われる場所で手を伸ばすと、そっと手を差し出し力強く握り返してくれます。一番印象的に感じた場面は巻き爪の治療に通院に行く際に、不安そうな顔で私の手を握ってくれた時。私が「大丈夫ですよ」や「一緒に頑張りましょうね」と話をしながら行くと徐々に力が抜け、表情が穏やかになっていくように見えました。Fさんに‘安心感’を感じてもらえているのであればとても嬉しいことだと思います。その後の治療も、極力本人に治療している箇所を見えないように配慮しつつ付き添うことで、最後まで必要な治療を受けることが出来ました。この安心感をFさんだけでなく、他の利用者さんにも感じてもらえるような支援員になりたいなと改めて思わせてもらった出来事でした。

支援員 白石 峻真

3班 『リフレッシュ』

3班に所属し、2年目となりました。私が受け持つ担当利用者さんのうち3名は、三気の里で生活をされている方です。昨年1年間は、数回個別外出を行い、それぞれの誕生日を皆でお祝いしようという決め、実施をしました。数ヶ月に1度、ご家族が面会に来てくださいますが、タイミングが重なり、年明けの外出先のショッピングモールで面会を行うことができました。利用者さんにとっても、ご家族にとっても、新鮮なひと時だったようで「また実施できれば！」とのお話をいただき、私自身もその場面に立ち会うことができ、本当に嬉しく思いました。

自分の衣類を選んで購入したり、コーヒーが好きな利用者さんとカフェ巡りをしたり、色々なレパートリーを考え、実施していく中で、利用者さん一人ひとりのリフレッシュの方法を一緒に見つけていければと思います。

支援員 有馬 幸奈

4班 『アップデート』

10年程前にAさんの歯磨きの課題分析をしました。歯磨きに30分近くかかり、何度も試行錯誤して、沢山アドバイスもいただきながら、最終的には手順を定着することができました。それから10年以上経ち、今と以前では、体力も違いますし、疲れの感じ方、とれ方も変わってきます。利用者の方が、高齢期に入り、支援の内容、支援のやり方など10年前とは変わる部分はもちろん、年齢を考慮して変えていかなければならない部分も増えています。自閉症の方の特性である、動けなさ、繰り返しの行動が強く出る一方で、身体的な負担も感じやすくなり、一概に支援と言っても同じやり方でいい場合と休憩の取り入れ方、作業量の調整、運動の内容、身体機能維持、日課の見直しなど個別化での細かい部分の見直しが必要な時期にあると思っています。現在は日課を自分で進めていけるように、トークンエコノミーを活用し、励ましながら、その日の目標に向かってやり取りをしています。私自身がアップデートし続けること、変化を受け入れ、その時々合った向き合い方で利用者さんに寄り添っていきたいです。そして何よりお元気で、たまには一息ついて幸せな日々を過ごして欲しいと思うばかりです。

支援員 清田 彩織

ふれあい動物園



『賞与支給』

利用者の方が頑張っていて働いて得た収入から毎月お給料をお渡ししていますが、年に1回、年間の収支からプラスになった分を『賞与』としてお支払いをしています。今回もみなさんの頑張りにより、4月のお給料支給日に『賞与』を支払うことができました。先日の研修でも触れたのですが、毎月の給料や賞与を目標に仕事を頑張り、それを趣味に使ったり、貯金したりと明確な目的がある方もいれば、そのまま保護者の方やスタッフへ渡しておしまいになっている方もいます。新しく買ったものを嬉しそうに見せてくる方に「これどうしたんですか？」と聞くと、「〇〇スタッフに買ってもらった」と言われる方が数名いらっしゃいます。その話を聞いて、本来自ら働いて得たお給料を、本人が実際に使うことを支援していくことも大事な役割だと感じています。また、少しでも多くお給料や賞与が支払えるようにさらなる収入アップを目指して日々努力していきます。

BeTREE 中嶋 剛

部長便り

『真のチームワーク』

部長 本田誠

三気の里ではミスが起きた際、再発防止に向けて該当するスタッフが報告書を提出し、ミスの内容及び改善策を全スタッフに周知するというシステムがあります。先日、利用者支援において職員間の伝達ミスが発生しました。この件に関して該当するスタッフが報告書を作成・周知し、通常であればこれで終わりです。しかし、今回はここで終わらず、1件の報告書を受けて自然と2件、3件と報告書を変えて1つのミスに対する報告書が続きました。責任の所在を明確にすることは大切ですが、発生してしまつたミスを他者に背負わせるのではなく、自分の立ち位置から考え自分のことができること、できたことを見直すことがより困難であり、重要であると捉えています。結果、今回の1つのミスに対して、3名から内容の異なる

改善策が挙がり、より再発防止に向けたフィルターと成りました。中心に利用者さんがいて、スタッフ個々が自分のことと捉え、知恵、策を出し合う姿こそが「福祉の真のチームワーク」だと感じると同時に、自然に発生した今回のチームの行動に対して、感謝と心地良さを感じました。

たんぽぽ

『サッカーW杯開幕で思う事』

相談支援専門員 立花 訓子

「外れるのはカス、三浦カス。」

28年前、当時のサッカー日本代表の岡田監督の口から出た言葉に衝撃を覚えました。にわかサッカーファンだった私には三浦選手が悲劇のヒーローに思えて仕方ありませんでした。しかし、その三浦知良選手は今も現役選手としてピッチに立ち続けています。ひたむきに挑戦し続ける姿は、我々同世代に勇気と希望を与えてくれます。

人が「どう生きたいか」を中

心に考え、出来ない事より出来る事・強みを活かす事、そしてそのプロセスに自分自身が主体的に関わるといったことは、福祉的な考えではありませんが、三浦選手の生き方もも重なって見えます。

病気や障がいがあっても、本人が自分の望む人生を自ら選択する過程において「エンパワーメント」や「リカバリー」の力が養われてくると思います。相談支援の仕事においても、当事者ご本人が自分で選んだ人生のプレイヤーとなれるように、サポートとしてだけではなくトリーナーとしても裏方から応援していきたいと思えます。



療育雑記

『みつづめ』

主任 友尻陽也

三気の里に入社し、生活支援員という仕事を始めて8年目になります。三気の里に入社する前は医療法人が経営する介護老人保健施設で支援相談員、医療機関で医療福祉相談員を計7年勤めていました。相談員はソーシャルワーカーといい、福祉や介護、医療、教育などの業界において、問題や悩みを抱えている人の支援や援助を行う職業のことをいいます。ソーシャルワーカーの基本的な姿勢としてバイステックの7原則があり、「個別化」「意図的な感情の表出」「統制された情緒的関与」「受容」「非審判的態度」「自己決定」「秘密保持」の7つからなります。

や家族、関係機関の方の相談を受けていました。内容はお金のことや退所後の生活についてなど様々で、当たり前ですが一人ひとり違う内容のものでした。相談は解決や良い方向に繋がるものばかりではなく、提案したい方向と違う方向に行くこともあります。ある日、私の考えが上手く伝わらずに感情的になり、早口になる、声が大きくなる、相手の話の途中で話し出すなど一人で熱くなっていました。その時の私は、私が考える最善の方向性に導きたいと想う気持ち先走ってしまいました。そんな時に上司から言われた言葉が「熱い心と冷めた頭」です。「熱い心と冷めた頭」と言われ考えてみると、私の想いは利用者さんや家族が望んでいるのか、それが本当に正しいのか、押し付けになってはいないか、ということに気付きました。

の感情に引きずられないように、冷静さや客観性を保つ専門的な関わり方のことをいいます。「熱い心」で相手を思いやりながらも、「冷めた（冷静な）頭」で問題の解決策を客観的に判断し、そして、援助者自身が「なぜ今このような感情を抱いているのか」「自分の偏見はないか」を常に自覚し、感情を「コントロールするための準備を整える必要があります」。

三気の里の利用者さんには想い（困り感）を伝えることが難しい方が居られます。支援者はそのような利用者さんに対し「熱い心」と「熱い頭」で対応をしてしまうと、一方的な支援となり、利用者さんを困惑（不安に）させてしまう原因となります。利用者さんが表現するサインに対し、応えようとする「熱い心」と、「冷めた（冷静な）頭」で日頃の観察や生育歴などを振り返り、安心して生活ができるように支援を行いたいと考えています。

る、失敗する、業務が立て込んである時などに私は熱くなってしまいます。熱くなっている時は息の吸い過ぎ、過呼吸が原因ではないかと思い、呼吸を整える（息を吐く）ことを意識するようになりまし。意識をすることで気持ち軽くなり、少し余裕をもって支援ができるようになっていきます。

昨年度より、研修課の所属長を務めさせていただいています。対人援助において「統制された情緒的関与」の実践は簡単ではありません。まずは利用者さんの想い（困り感）に気づき、担当だけではなくチームで考え、利用者さんが安心できる雰囲気を作っていきたいです。



7月スケジュール

02(木) ドーナツの日
 09(木) ゴールドクラブ
 アンパ創作活動
 11(土) 話し合いの部屋
 15(水) 2班レクリエーション
 16(木) 囑託医来診
 17(金) 夏祭り・リハの日
 22(水) 音楽の日
 24(金) 産業医職場巡視

25(土) 施設職員バレーボール大会
 28(火) 強度行動障害支援者養成研修(基礎)
 ~29日(水)
 30(木) 3班レクリエーション
 31(金) プラッシング指導
 毎週月曜日 訪問理容サービス
 毎週水曜日 BeTREE役場販売
 BeTREE



坂梨 清美様
 魚谷 郁子様
 木下 祐一様
 高森 雅代様
 米田 孝一様
 井上 優様

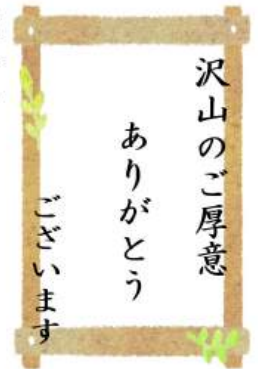
【後援会ありがとうございます】

森川 琇介様
 亀崎 幸久様
 吉田 和信様
 中嶋 久枝様
 赤星 央子様
 柴田 博子様
 小牧 博則様

【寄付物品】

木村 産業様
 藤井 法仁様
 松村 俊介様
 春野 宗敏様
 三気の里 家族会

【寄付】



田中 満子様
 西村 栄子様
 井上 律子様
 森木 美樹様
 林 千莎子様
 宮本 眞一様
 荒川 信子様
 佐藤 由美子様
 山崎 日出男様

編集後記

7月と言えば、七夕ですが、織姫と彦星は、年に一度しか会えない恋人同士の話と知っている人も多いと思います。しかし、恋人の話ではなく夫婦の話で、結婚した2人は、お互いに夢中になり、仕事をしなくなって、人々に迷惑をかけたので、「きちんと仕事を続けるなら、年に一度だけ会ってよい」という約束が与えられたそうです。このことから、仕事と家庭のバランスを忘れた夫婦という側面と、やるべきことを果たしてからこそ、大切な人に会えるという教えがあるそうです。

仕事と家庭のバランスは大事だと感じました。

中村 圭助

